



新旧折衷様式 - 高山市久々野空き家活用案

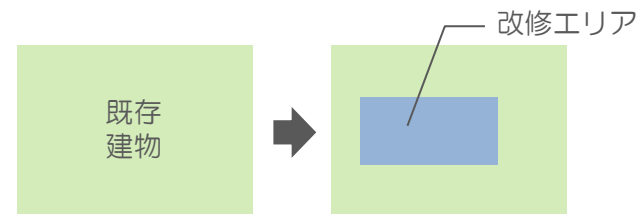


●空き家の活用と立地

飛騨高山で農地に囲まれた本物件の立地を考慮して、下記のプログラムを考えた。

- ①セカンドハウスや移住体験用住宅
- ②農業体験の拠点
- ③レンタルスペース

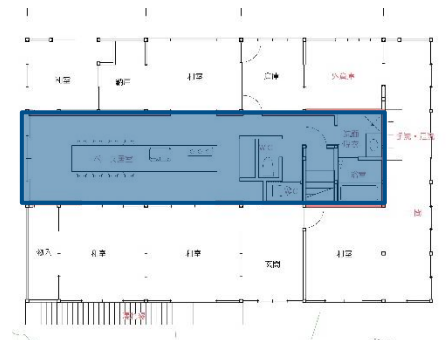
①②は都市部におけるニーズによるもので、③は地域住民にも利用されるものであってほしいという思いで挙げた。



●空間構成 - 民家の利用

民家をどのように活用するにしても、既存の居住性を改善する必要がある。中間期には風が通り気持ちのいい民家も、冬期に囲炉裏を囲む生活は、現代人の生活には受け入れられにくい。一方で全面的に改修すると、もともと持っている歴史や趣きが失われてしまう。

そこで居住性を改善したエリアと、既存空間を残すエリアを明確に分けた構成を考えた。

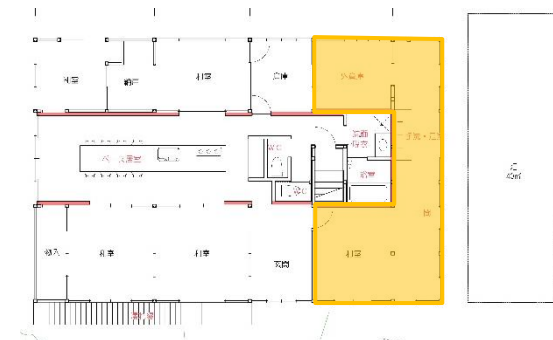


●平面構成 改修エリアと用途

改修エリアA

外観への影響と経済性を考慮して、外壁部を避け中間スパンを範囲とした。

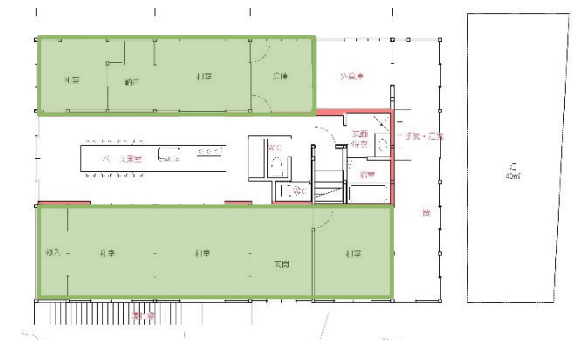
- ①断熱化、空調エリアとする。
 - ・既存間仕切り内側に入子状に断熱材を施した壁を設ける。
 - ・出入口は断熱気密施工とする。
- ②生活に必要な不可欠な要素を設ける。
 - ・厨房設備、浴室、便所、寝室。
- ③2階の一部に寝室とできる断熱エリアを設ける。



改修エリアB

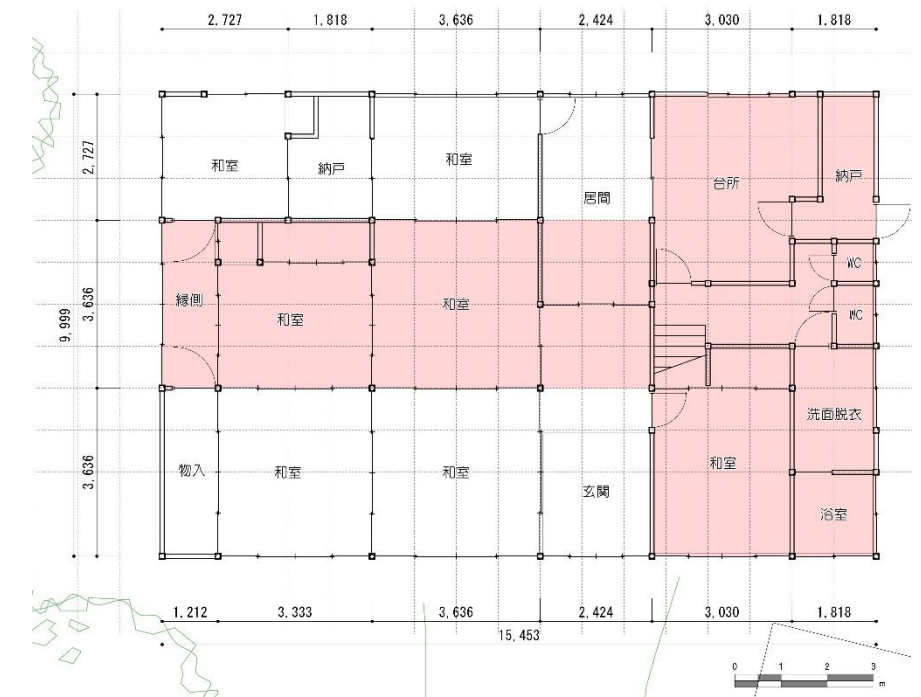
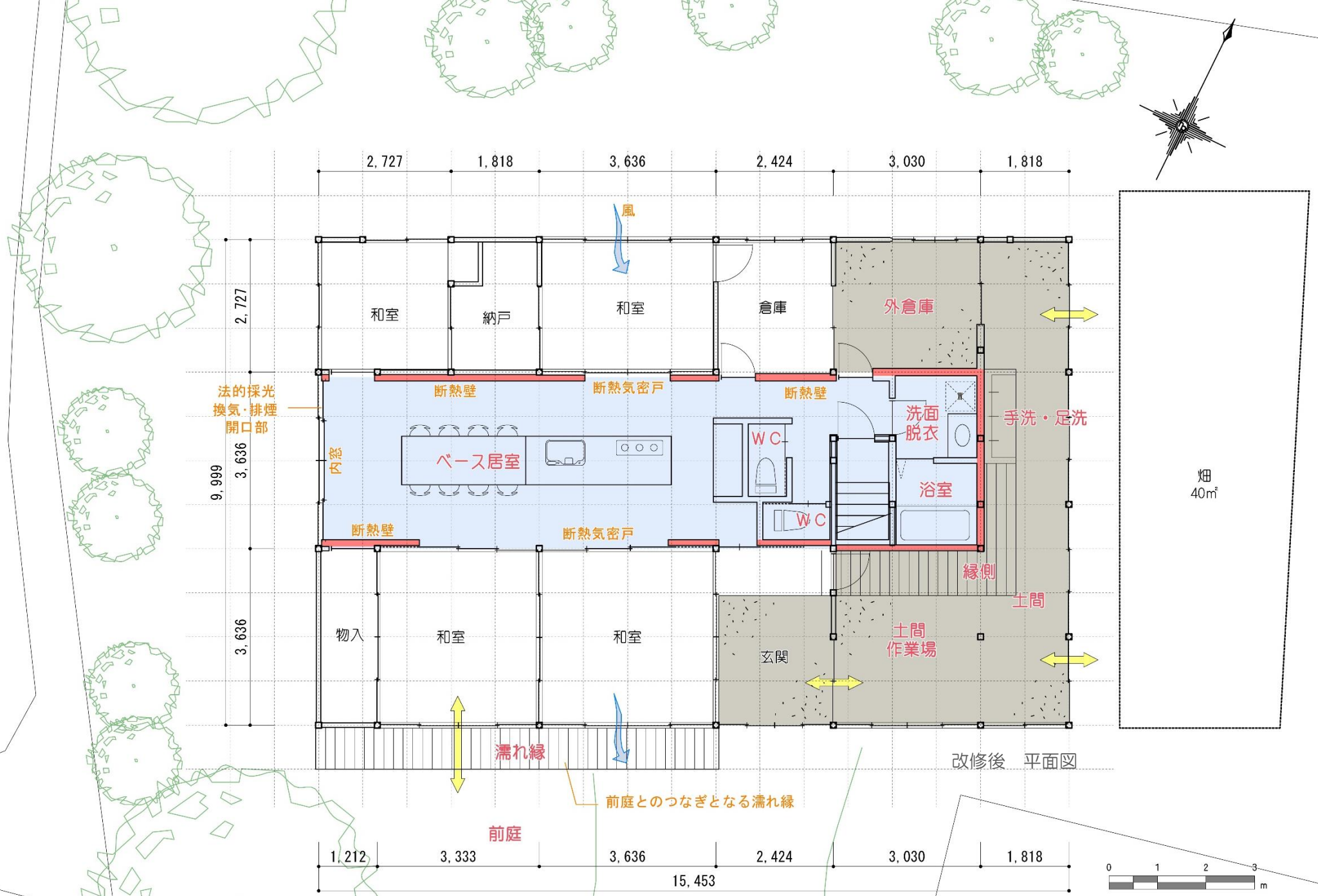
東側畑との連携を意識した空間改修

- ・畑と一体的に利用できる屋根下の土間空間
- ・農機具等の外倉庫
- ・手・足洗い場
- ・休憩用の縁側



既存エリア

民家の特性をそのまま生かしたエリア。必要不可欠な要素は改修エリアAにあるので、生活を豊かにするその延長のような場となる。中間期、夏季であっても夜間は空調に頼らずとも過ごしやすく、民家らしさを味わうことができる。



既存建物 平面図
 : メイン改修範囲

●経済性への配慮

- ・改修エリアを絞ること
- ・外壁を改修しないことで防水等を必要としない間仕切り等の内装改修をメインとすること

●運用案

都市部からは移住体験、農業体験、地域住民にはバーベキューや簡易的な集まり、教育のための農業体験、などが想定される。時間貸しとすることで対応可能と考えた。建物用途は住宅もしくは貸事務所と位置づける。

ハードとしてはそのままセカンドハウスとすることもできるし、大きな住宅の改修事例としても、同様の住宅を所有する地域住民へ参考ともなる。

●活用イメージ



ベース居室から前庭までを使ってバーベキュー



畑から土間へと連続する屋根下空間
 連続引戸でオープンな空間